

国語科学習指導案

第1学年

授業仮説（本時の視点）

写真や文章を手がかりに、場面ごとの登場人物の成長を読み取る活動を取り入れれば、教材全体を通して、登場人物がどのように成長を遂げたのかが読み取りやすいであろう。

I 単元

1 単元名 「うみへのながいたび」(教育出版 1年下)

2 単元の目標

[知識及び技能]

○語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読できる。

[思考力、判断力、表現力]

①場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えられる。

②場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像できる。

[学びに向かう力、人間性等]

○言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切にして思いや考えを伝え合おうとする。

3 単元の評価規準

[知識・技能]

○語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読している。

[思考・判断・表現]

①「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。

②「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。

[主体的に学習に取り組む態度]

○内容の大体を積極的に捉えながら、想像した登場人物の気持ちを工夫して伝えあおうとしている。

II 考察

1 児童の実態

[知識・技能]

○音読の最初は、知らない言葉の読みや「は」や「へ」の使い分けができないことが多い。しかし、毎日練習を重ねることで、適切に読み、暗記するまで成長する児童が多い。間を意識できるとさらに良い。

[思考力、判断力、表現力]

○「おおきなかぶ」では、一人一役のグループ活動を通して、時系列に沿って物語を読み取ったり、登場人物の行動や気持ちを考えたりする学習を行った。その際、ワークシートに、登場人物の気持ちを記述できない児童もいたが、口頭で質問すると答えられる場合が多かった。「けんかした山」では、挿絵の山の表情をヒントとして、教材の内容を読み取ることができた。一方で、学習の終盤に、心に残る場面を選択し、理由を記述する際に、「かっこよから」など書く児童も複数おり、教材への共感や深まりが浅い児童が一部に見られた。「だれが、食べたのでしょうか」では、問い・答え・食べ方などを本文から見つけたり、写真と文をつなげたりする学習をしてきている。写真と文をつなげる活動では、多くの児童が食べる前の様子を示す文はどれか、食べた後の様子を示すのはどれかを説明できた。

[学びに向かう力、人間性等]

○読み聞かせや、音読練習を積極的に行いながら、お話の内容をつかんでいく児童が多い。ノートやプリントへの記述、音読を一生懸命行う児童も多い。グループ活動の際には、協力して課題に取り組める。一方で、思いや考えを伝えあおうとする意欲が低い児童は数名いる。また、既習事項を生かして学習に取り組める児童は3分の2程度で、残りの児童は、既習事項を生かさそうとする意欲が低い。

2 教材観

本単元は、第1学年及び第2学年の内容の「C 読むこと」の指導項目「場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えること」、「場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること」に基づいて設定された単元である。この「うみへのながいたび」という物語は、生まれたての子熊が成長しながら、母熊とともに海への道のりを歩いていくという内容である。教材には、子熊の成長過程や親子での旅の流れが、順序だてて書かれている。そして、その文章に即した9つの写真が含まれる。そのため、写真や文章を手がかりとして、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えることができる。また、本文には、()や「」が多く用いられている。そのため、登場人物の気持ちや心情を表す表現方法を理解し、写真や()、「」を根拠としながら、登場人物の行動や気持ちを具体的に想像する力を高めることにつながる。

3 校内研修との関わり

◎今年度の校内研修のテーマ「共に学び合い、課題解決を目指す児童の育成」

○低学年の目指す児童像

「自分の考えを表現したり、友だちの考えを聞いたりしながら、自他の考えを比べることができる児童」

本単元では、教科書の写真や文をもとにだれがどこで、何をしたのかを読み取り、登場人物の気持ちを想像するという活動を設定し、追究していく。教材のどこを根拠にどのように考えたかを説明したり、友だちの考えとの相違を比べたり、また、登場人物の気持ちを写真や文章をもとに想像したりすることで、子どもたちは、様々な角度から教材の内容をつかみ、登場人物の行動や気持ちについて考えることができる。このような学習活動で、低学年の目指す児童像に迫っていくことができると考える。

III 指導方針

○「つかむ」段階

- ・学習に対する意欲を高められるよう、児童の既存の知識や経験を発表する時間を設ける。
- ・教材の内容に関心をもちながら単元が開始できるよう、題名や写真をもとに想像が広がるような問いかけをする。
- ・語のまとまりに気をつけて音読できるよう、教師が意識して範読する。
- ・知らない言葉や表現を理解できるよう、分からない言葉がある際は、動きや例などを交えて丁寧に説明する。
- ・配慮を要する児童が安心して発声できるように、一斉音読を行う。

○「追究する」段階

- ・教材の順序や、登場人物の行動を読みとる手助けとなるよう、時系列に沿って写真の順番を並び変えたり、登場人物がどこで、いつ、何をしているのかを確かめたりする。
- ・文章と照らし合わせながら情報を読み取ろうとする意識をもてるよう、写真だけでは分からない情報について問う。
- ・自他の考えを比較できるよう、学級の友だち同士でお互いの考えを比較する時間をとる。
- ・教材の内容をイメージしやすいよう、既習事項や具体物を提示したり、母ぐまや子ぐまになりきる活動を取り入れたりする。
- ・()や「」の部分が、登場人物の気持ちを表していると理解できるよう、吹き出しを写真に付け加えていく。
- ・単元最初と比べ教材の理解が深まるよう、成長の過程を振り返りながら、どのような成長を遂げたのかを問う。

○「まとめる」段階

- ・理由の書き方をイメージしやすいよう、「どうしてかという、～な様子が分かるからです。」「～な気持ちが伝わってくるからです。」などと例を示す。
- ・共通点を感じとったり、他の考え方を知ったりできるよう、同じ写真を選んだ人どうし、異なる写真を選んだ人どうしで、理由を発表し合う。
- ・気持ちを想像しやすいよう、母ぐまや子ぐまの写真に吹き出しをつけて、そこに書き込むようにする。
- ・登場人物の気持ちが想像しやすいよう、「」や()をヒントにするよう声をかける。
- ・様々な場面の登場人物の気持ちについて想像できるよう、一つだけでなく、様々な写真に吹き出しをつけて考えるようにする。
- ・新たな気づきを生んだり、よりよい作品にしたりできるよう、友だちの想像した言葉を聞く活動や、感想を伝えあう活動を取り入れる。

教科	国語	学年・単元名	1 学年 うみへの ながいたび	指導時期	11月中旬～11月下旬
単元の目標〔知識及び技能〕○語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読できる。〔(1)言葉の特徴や使い方に関する事項〕 〔思考力、判断力、表現力〕①場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えられる。〔C 読むこと(1)イ〕 ②場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像できる。〔C 読むこと(1)エ〕 〔学びに向かう力、人間性等〕○言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切に思いや考えを伝え合おうとする。〔(小)第1学年及び第2学年の目標(3)〕					
単元の系統とその内容	1年	くまさんとありさんのごあいさつ 登場人物の様子を考え、楽しく音読する →けんかした山 お話を読む楽しさを味わう	→けむりのきしや 文章と写真を結びつけ、想像を広げて読む →うみへのながいたび(本時) 写真と文から誰が何をしたのか確かめる	→おおきなかぶ 繰り返しの展開を楽しみながら、想像を広げて読む →スイミー 面白かったところを紹介する	→お手がみ 様子を思い浮かべて読み、登場人物に手紙を書く
本単元に係る児童の実態	〔知識及び技能〕音読の最初は、「は」や「へ」の使い分けや、知らない言葉の読みができないことが多い。しかし、毎日練習を重ねることで、適切に読み、暗記するまで成長する児童が多い。間を意識できるとさらに良い。 〔思考力、判断力、表現力〕「おおきなかぶ」では、一人一役のグループ活動を通して、お話の時系列を読み取ったり、登場人物の行動や気持ちを考えたりする学習を通して、内容を捉えたり、登場人物の行動を想像することができるようになってきている。 プリントに、登場人物の気持ちが記述できない児童もいるが、口頭で質問すると答えられる場合が多い。 〔学びに向かう力、人間性等〕読み聞かせや、音読練習を積極的に行いながら、お話の内容をつかんでいく児童が多い。一方で、思いや考えを伝え合おうとする意欲が低い児童は数名いる。				

(全 時間予定:本時は 時間目)

過程	時	ねらい	主な学習活動	主な支援・指導上の留意点(●配慮を必要とする児童への支援)	〔評価の観点〕評価規準(評価方法) ◇指導に生かす評価◆評定に用いる評価
ふれる・つかむ	1	○白くまや、お話の内容に興味をもつことができる。	○白くまについて知っていることや興味のあることを話したり、調べたりする。 ○写真をみて、どんな話が推測する。 ○音読する。	○意欲を高められるように、児童の既存の知識や経験を発表する時間を設ける。 ○教材の内容に関心もちながら単元が開始できるよう、写真を見ながらどのような旅か問いかける。 ○言葉のまとまりや間を意識して読めるよう、教師が意識して範読をする。 ●言葉と音が一致するよう、必要な児童は、指で文をなぞりながら読むよう声をかける。	◇〔態〕白くまについて知っていることや興味のあることを積極的に伝えあったり、調べたりしている。〈観察・振り返り〉
	2	○知らない言葉の意味を考えることができる。	○知らない言葉の意味を考える。	○知らない言葉や表現を理解できるよう、動きや例を交えて丁寧に説明する。 ●配慮を必要とする児童が安心して発声できるよう、一斉音読を行う。	◇〔知〕知らない言葉の意味を考え、理解しようとしている。〈観察〉
追究する	3・4・5	○写真や文章を手がかりにして、誰が、どこで、何をしたのかを読み取ることができる。	○写真や文章を手がかりにして、登場人物が何をしたのか読み取る。 ③P.32-35 ④P.36-37 ⑤P.38-44	○登場人物が何をしているのか確かめられるよう、「誰が、どこで、何をしたか」を問い、根拠となる部分に線を引くよう促す。 ○写真の見るべきポイントが明確になるよう、写真で注目してほしい部分に印をつける。 ○生まれたての白くまの様子が分かるよう、既習事項「だれが食べたのでしょう」で登場したりスや、生まれたての白くまの実物写真を提示する。 ○()や「 」の部分が、登場人物の心情を表している理解できるよう、吹き出しを写真に付け加えていく。 ●児童が登場人物の気持ちに近づけるよう、穴からでてきた子熊になりきる活動や、100日近く水だけで生活しながら子育てをする母熊になりきる活動を取り入れる。	◇〔知〕知らない言葉を理解しながら、文や文章を適切に読んでいく。〈観察〉 ◇〔思①〕写真や文章を手がかりにして、誰が、どこで、何をしたのかを読み取っている。〈発言、教科書への記入〉 ◆〔思①〕写真や文章を手がかりにして、誰が、どこで、何をしたのかを読み取っている。〈発言、教科書への記入〉 ◆〔思①〕写真や文章を手がかりにして、誰が、どこで、何をしたのかを読み取っている。〈発言、教科書への記入〉 ◇〔態〕既習事項をいかして、学習活動に取り組もうとしている。〈教科書への記入、発言〉
	(本時) 6	○写真や文章を手がかりにしながら、登場人物の成長を読み取ることができる。	○写真や文章を手がかりにしながら、登場人物の成長を読み取る。	○成長度合いに気づけるよう、写真を比べながら、相違点を聞いたり、実物の大きさの写真を提示したりする。 ●場面の順序を視覚的に把握できるよう、時系列にそって写真の順番を並び変える活動を取り入れる。 ○場面ごとにどのような成長を遂げているのかが読み取れるよう、写真を見ながら成長の過程をふり返る。	◆〔思①〕写真や文章を手がかりにしながら、登場人物の成長を読み取っている。〈発言、ワークシート〉
	7	○語のまとまりや言葉の響きに気をつけながら、読み取った内容をいかした音読をすることができる。	○語のまとまりや言葉の響きに気をつけながら、読み取った内容をいかした音読をする。	○読み取った内容をいかした読みにつなげられるよう、既習の語句を取り上げながら、「その部分はどうな読み方をしたら良いか」を問いかける。 ●具体的な読み方がイメージできるよう、上手に表現できる児童に発表してもらい、参考にできるようにする。	◆〔知〕語のまとまりや言葉の響きに気をつけながら、読み取った内容をいかした音読をしている。〈観察、録音〉
まとめる	8	○お気に入りの写真を選び、どうしてその写真がお気に入りなのか理由を明確にできる。	○お気に入りの写真を選び、その理由を考える。	●理由の書き方をイメージしやすいよう、「どうしてかという、～な様子が分かるからです。」「～な気持ちが伝わってくるからです。」などと例を示す。 ○同じ写真を選んだ人どうし、異なる写真を選んだ人どうしで、理由を発表し合うことで、共通点を感じとったり、他の考え方を知ったりできるようにする。	◇〔思②〕お気に入りの写真を選び、理由を考えている。〈理由カード、観察〉
	9	○写真や文章を手がかりに、登場人物の気持ちを想像することができる。	○写真や文章を手がかりにして、登場人物の気持ちを想像し、吹き出しに書きこむ。	○気持ちを想像しやすいように、母ぐまや子ぐまの写真に吹き出しをつけて、そこに書き込むようにする。 ●登場人物の気持ちが想像しやすいように、「」や()をヒントにするよう声をかける。	◆〔思②〕登場人物の気持ちを想像して、明確にしている。〈ワークシート、観察〉
	10	○想像した登場人物の気持ちを発表できる。	○登場人物の気持ちを発表する。	○友だちの想像した言葉を聞くことで、共感したり、付け足したりできるようにする。 ●配慮を必要とする児童が話しやすいよう、練習時間を設け、発表者の良いところを見つける活動を取り入れたり、応援し合う雰囲気づくりに努めたりする。	◆〔態〕友だちが想像力をはたらかせて書いた発表を、進んで分かち合うとともに、一生懸命発表しようとしている。〈観察・振り返り〉

単元の評価規準

〔知識・技能〕○語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読している。

〔思考・判断・表現〕①「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。

②「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。

〔主体的に学習に取り組む態度〕○内容の大体を積極的に捉えながら、想像した登場人物の気持ちを工夫して伝えあおうとしている。

国語科学習指導案

第3学年

授業仮説（本時 4/6 時間目中）

詩の書き方の工夫について理解する場面において、それぞれに合ったワークシートで考え、グループや学級全体で交流することは、感じたことや想像したことをもとに表現を工夫して詩を書くことを習得するために有効であろう。

I 単元

1 単元名 はっとしたことを詩に書こう（教育出版 3年下）

2 単元の目標

〔知識及び技能〕

- ① 言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くことができる。
- ② 様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増やし、話や文章の中で使うとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにすることができる。

〔思考力、判断力、表現力等〕

○感じたことや想像したことをもとに、表現を工夫しながら詩をつくることができる。

〔学びに向かう力、人間性等〕

○言葉がもつよさに気が付くとともに、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。

3 単元の評価規準

〔知識及び技能〕

- ① 言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付いている。
- ② 様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増やし、話や文章の中で使うとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにしている。

〔思考力、判断力、表現力〕

○「書くこと」において、感じたことや想像したことをもとに、表現を工夫しながら詩をつくっている。

〔主観的に学習に取り組む態度〕

- ① 進んで書き表したいことを工夫し、学習の見通しをもって 詩を作ろうとしている。
- ② 身近なことや想像したことをもとに言葉を工夫して詩に書く楽しさやおもしろさを味わっている。

II 考察

1 児童の実態

〔知識・技能〕

○1学期の「発見ノートを作ろう」では、自分が体験したり、発見したりした身近な出来事について、見出しを付けて書くことを経験した。また、「生き物ブックを作ろう」では、自分が興味のある生き物について調べて文章でまとめた。内容によって、項目ごとにまとめることはできるが、主語と述語の関係、指示する語句と接続する語句の役割などについては、理解できていない児童も多くみられる。「俳句に親しむ」「きせつの言葉を集めよう」では、易しい文語調の短歌や俳句を音読したり暗唱したりするなどして、言葉の響きやリズムに親しんだ。クラスの歳時記を作り、季節を表す「季語」について理解し、集めることができた。

〔思考・判断・表現等〕

○1 学期の「発見ノートを作ろう」では、関心のあることなどから書くことを決め、相手や目的に応じて発見ノートを書くことを意識できた。「俳句に親しむ」では、自分が気に入った俳句とその理由を

書いたり、発表したりすることができた。4月から週末に日記を書いているが、出来事など事実を書くことはできる一方で、自分の思いや考えを書いて表現することが苦手な児童が多い。1学期に行った俳句作りは、季語を用いて積極的に作ることができた。本単元でも、自分の経験から感じたことを詩で表現することにつなげていきたい。

〈学びに向かう力、人間性等〉

本学級は、読書の好きな児童が多く、休み時間や給食の前の時間など、自主的に読書を楽しんでいる児童がとて多い。アンケートでは、多数が「読書が好き」「どちらかというが好き」と答えている。また、自分の考えや思いを発表して伝えたり、友達同士で話し合ったりすることにおいて、積極的に活動できる児童が多く見られる。書くことにおいては、自分の考えや思いを表現することに対して、苦手意識が強い児童が多くみられる。作文や日記など自分の気持ちを表すことに対して「嫌い」「どちらかという嫌い」と答えている児童が約半数いる。また、俳句や詩を書くことについても、約半数が「嫌い」「どちらかという嫌い」と答えている。本単元では、詩の表現の工夫を理解するとともに、詩を書く楽しさも味わえるようにしたい。

2 教材観

本単元では、第3学年及び第4学年の内容の「B 書くこと」の指導事項（1）ウ「自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること」（2）ウ「詩や物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動」に基づいて設定された単元である。身近なできごとや周りの人との関わりの中で、心が動いた瞬間について振り返ったり、見つめなおしたりして、気付いたことや想像したことをもとに、表現を工夫して詩を書く学習である。様々な音読活動を通して、詩のもつリズムや響きを感じ、詩の表現上の工夫や良さに気付いてほしい。そして、楽しみながら、詩の表現のおもしろさを児童自身が身に付けられるようにしたい。作品の中に出てくる、くり返し、リズムのよさ、比喩、直喩、擬声語など多様な特徴をもつ詩を味わい、作者の視点から見たり、感じたりした周りの様子や想像したことを詩の技法を生かして、工夫して表現していることを児童に感じてほしい。実際に書く活動においても、伝えたいことや心の動きをどのように表現するか、学習した事を活かして表現できるようにしたい。作った作品は、クラスの友達と読み合い、感想を交流させることで、自分の思いや心の動きを言葉で表すおもしろさ、楽しさを十分に感じられるようにしたい。そして、作った作品を上毛新聞ジュニア詩壇に応募することをゴールに設定し、意欲を高めたい。

3 校内研修との関わり

◎今年度の校内研修のテーマ

「共に学び合い、課題解決を目指す児童の育成

～中川小学校学習過程スタンダードを基盤とした授業作り～

○中学年の目指す児童像「自分の考えをもち、よりよい考えを見つけようとする児童」

本単元は、詩の表現形式や特長を理解しながら、最近のできごとや身近なことから気付いたことや想像したことなどを詩に表現することを学習する。詩の表現形式の特長を捉える場面においては、グループや全体で意見を出し合ったり、出来上がった作品を友達と読み合い交流したりする。友達の詩の良いところを見つけたり、自分の感想を伝えたりする活動を通して、共に学び合うことができると考える。

また、中川小学校学習過程スタンダードを基盤とすることにより、児童が見通しをもって学習に臨むことができ、目指す児童像に迫ることができると考える。

Ⅲ 指導方針

○「つかむ」段階

- ・児童が、身近なできごとを題材にした詩に触れられるように、本や詩を教室に掲示しておく。
- ・詩を書く題材を集めるために、日頃から、身近なできごとをロイロノートの「はっとしたことメモ」

に書き溜められるようにする。

- ・音読活動を通して、詩のもつリズムや響きを感じ、表現上の工夫や良さに気付けるようにする。
- ・「だんごむし」「おふろ」について、児童が想像を膨らませることができるようにチャート図を用意する。その際、擬音語や擬態語についてもたくさん考え、詩の作成につながるようにする。
- ・情景を想像しやすいように、写真を用意する。

○「追及する」段階

- ・「ころころりん」「なべでふうふう」の全文のワークシートを用意し、右に気付いたことを書き込めるようにする。
- ・詩の工夫について確認する場面では、「ころころりん」は個人から全体で交流、「なべでふうふう」では、個人、グループから全体で交流するように設定する。
- ・「ころころりん」「なべでふうふう」の拡大シートを用意し、児童の意見を板書で確認し、「詩の書き方のくふう」について、全体で共通理解できるようにする。
- ・詩を書く工夫をさらに理解するために、工夫のしていない詩を用意して、工夫する良さについて確認する。
- ・詩の書き方の工夫を活用する穴埋めワークシート（ロイロノート）を複数のパターンを用意し、個々に応じたものを選べるようにする。
- ・穴埋めワークシートをロイロノートで作成することにより、児童が書き直ししやすいようにする。
- ・グループでの交流の場面では、ロイロノートを見せて発表し、自分が工夫したことを伝えたり、友達の工夫を見つけて伝えたりできるようにする。
- ・全体交流の場面では、大型モニターを活用し、全体での交流が視覚的にも分かりやすいようにする。
- ・児童が詩を書くときには、題材が見つからない児童は、書き溜めておいた「はっとしたことメモ」を活用できるようにする。
- ・下書きは、ロイロノートで作成し、書き直しがしやすいようにする。

○「まとめる」段階

- ・交流の場面では、大型モニターを活用し、全体での交流が視覚的にも分かりやすいようにする。
- ・グループでの交流後に、感想をロイロノートで送り合えるようにし、
- ・上毛新聞のジュニア詩壇には、罫線を用いたワークシートを用意し、丁寧に書くようにする。

IV 本時の学習 (6時間予定 本時は4時間目)

1 ねらい 二編の詩の書き方の工夫や表現の優れているところを参考にし、詩の書き表し方の工夫について理解を深める。

2 準備 児童：教科書、ノート、iPad (ロイロノート)

教師：教科書、iPad (ロイロノート)、前時の「ころころりん」「なべでふうふう」の拡大シート、書き方を工夫していない詩、詩の書き方の工夫のまとめ

3 展開

過程	学習活動 ・予想される児童の反応	時間	支援・指導上の留意点 ☆支援を要する児童への手立て		
つかむ	<p>1 前時を想起する。既習事項の確認をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「詩の書き方のくふう」について確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> 題名のくふう・たとえる・音、声、様子 くり返し・リズム・心の動き、気持ち </div> <p>・2つの詩について、工夫するとどんな良いことがあったのか確認する。(掲示)</p> <p>2 本時のめあてをつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>【めあて】詩の書き方のくふうをさんこうにして、詩を作ろう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> 「ころころりん」「なべでふうふう」の音読 	8	<p>○前時の拡大シートをもとに、既習事項を想起させ、本時につながるようにする。</p> <p>○前時のノートを確認してもよい。</p> <p>○本時は、「詩の書き方のくふう」を参考にして、「ころころりん」「なべでふうふう」の詩を自分で作ることを確認する。</p> <p>○本時のめあてをつかめるように、全員でめあての確認をする。</p> <p>○書き方の工夫を意識しながら音読できるようにする。</p>		
考える	<p>3 「ころころりん」「なべでふうふう」を自分なりの書き表し方で表現する。(ロイロノート)</p> <p>「ころころりん」(例) 「なべでふうふう」(例)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; padding: 5px;"> <p>「まんまるりん」</p> <p>だんごむしがいた</p> <p>つかまえようとしたら</p> <p>あっちへ こっちへ</p> <p>まるまるまるっと</p> <p>まるまって</p> <p>まるまるりん</p> <p>草むらぬけても</p> <p>まるまるまるっと</p> <p>おっと目が見えるのかな</p> <p>だんごむし</p> </td> <td style="width: 50%; padding: 5px;"> <p>「さばくであちち」</p> <p>妹と、お風呂に入った。</p> <p>湯ぶねのバシャーンと入ったら、</p> <p>「あちちちち！」</p> <p>妹がさげんで、</p> <p>湯ぶねのお湯を</p> <p>「ひゅーひゅー」「ひゅーひゅー」</p> <p>口でさました。</p> <p>ぼくはまるで</p> <p>妹と</p> <p>さばくに行ったような気分になった。</p> </td> </tr> </table>	<p>「まんまるりん」</p> <p>だんごむしがいた</p> <p>つかまえようとしたら</p> <p>あっちへ こっちへ</p> <p>まるまるまるっと</p> <p>まるまって</p> <p>まるまるりん</p> <p>草むらぬけても</p> <p>まるまるまるっと</p> <p>おっと目が見えるのかな</p> <p>だんごむし</p>	<p>「さばくであちち」</p> <p>妹と、お風呂に入った。</p> <p>湯ぶねのバシャーンと入ったら、</p> <p>「あちちちち！」</p> <p>妹がさげんで、</p> <p>湯ぶねのお湯を</p> <p>「ひゅーひゅー」「ひゅーひゅー」</p> <p>口でさました。</p> <p>ぼくはまるで</p> <p>妹と</p> <p>さばくに行ったような気分になった。</p>	15	<p>○書き表し方の工夫する良さを活かして、自分なりに工夫して書けるようにする。</p> <p>☆例を示すことによって、苦手意識のある児童も取り組みやすいようにする。</p> <p>○「ころころりん」「なべでふうふう」のどちらでも、やってみたい方を記入させる。</p> <p>☆穴埋めワークシートを3種類ずつ用意し、自分の取り組みやすいシートで考えるようにする。</p> <p>○1時間目に行ったチャート図を参考にし、イメージが膨らむようにする。</p> <p>○ロイロノートに書くことにより、書き直しがしやすいようにする。</p> <p>○1つ書き終えたら、2つ目に挑戦できるようにする。</p>
<p>「まんまるりん」</p> <p>だんごむしがいた</p> <p>つかまえようとしたら</p> <p>あっちへ こっちへ</p> <p>まるまるまるっと</p> <p>まるまって</p> <p>まるまるりん</p> <p>草むらぬけても</p> <p>まるまるまるっと</p> <p>おっと目が見えるのかな</p> <p>だんごむし</p>	<p>「さばくであちち」</p> <p>妹と、お風呂に入った。</p> <p>湯ぶねのバシャーンと入ったら、</p> <p>「あちちちち！」</p> <p>妹がさげんで、</p> <p>湯ぶねのお湯を</p> <p>「ひゅーひゅー」「ひゅーひゅー」</p> <p>口でさました。</p> <p>ぼくはまるで</p> <p>妹と</p> <p>さばくに行ったような気分になった。</p>				

集める	<p>4 作った詩をグループや学級全体で発表し、交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループで発表、交流 <ol style="list-style-type: none"> ① 自分の詩の発表、 ② 自分が工夫したところを伝える。 ・クラス全体で発表、交流 <ol style="list-style-type: none"> ① 自分の詩の発表 ② 発表した友達の工夫したところを発表 	12	<p>○ロイロノートの提出箱に提出し、グループで、それぞれが書いた詩を交流する。</p> <p>○「詩の書き方のくふう」を参考にして、どれを意識したのか伝えるようにする。</p> <p>☆発表できない児童には、机間指導し助言する。</p> <p>○クラス全体でも、発表する時間をとり、モニターを使って紹介し、それぞれの良さを感じられるようにする。</p>
まとめる・振り返る	<p>5 詩の書き方を工夫する良さを確認し、振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・くふうすることによって、楽しい詩ができた。 ・自分の詩も、友達の詩も工夫が見つけられた。 ・自分の詩を作るときも工夫したい。 	10	<p>○本時のまとめ・振り返りをする。</p> <p>○振り返りは、ロイロノートに書いて提出する。</p> <p>○クラス全体で、振り返りを共有しまとめとする。</p>
<p>◆ [知②] 「題名の工夫」「たとえ」「音や声」「くり返し」「リズム」「心の動き」を活かして、様子や行動、気持ちなどを表す表現を使っている。〈ロイロノート・話し合い・発言・振り返り〉</p>			
	6 次時の確認をする。		○次時は、自分で題材を決めて、詩を書くことを確認する。

板書計画

振り返る	まとめる	集める	考える	めあて	つかむ	
<ul style="list-style-type: none"> ・くふうして書くことによって、楽しい詩ができた。 ・みんなの表げんが、それぞれちがっていておもしろい。 ・これから、自分の詩を作るのが楽しみになった。 	<p>振り返り</p>	<p>○クラス全体で発表、交流をしよう。</p> <p>① 自分の詩を発表 ②友達がよかったところを発表</p>	<p>○詩の書き方をくふうして、自分で詩を作ろう。</p> <p>○グループで発表、交流をしよう。</p> <p>① 自分の詩を発表 ②くふうしたところを発表</p>	<p>詩の書き方のくふう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・題名のくふう ・たとえ ・音、声、様子 ・くり返し ・リズム ・心の動き、気持ち <p>☆くふうするよさは？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・くわしい様子が ・わかりやすくなる。 ・気持ちがより伝わってくる。 ・楽しい詩ができる。 ・想ぞうが広がる。 ・わくわくする。 	<p>はつとしたことを詩に書くころ</p> <p>ころころりん</p> <p>工夫なし</p> <p>なべでふうふう</p> <p>工夫なし</p>	<p>なべでふうふう</p>

単元の目標 ●〔知識及び技能〕 ○言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くことができる。((1) 言葉の特徴や使い方に関する事項 ア) ○様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増やし、話や文章の中で使うとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにすることができる。((1) 言葉の特徴や使い方に関する事項 オ) ●〔思考力、判断力、表現力等〕 ○感じたことや想像したことをもとに、表現を工夫しながら詩をつくることができる。(B書くこと (1)ウ (2)ウ) ●〔学びに向かう力、人間性等〕 ○言葉がもつよさに気が付くとともに、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。 ((小) 第3学年及び第2学年の目標 (3))					
単元の系統		第3学年 「発見ノート」を作ろう → 「俳句に親しむ」 → 「はっとしたことを詩に書こう」 → 「強く心にのこっていることを」 生活の中での発見をノートに書く 俳句を読み、言葉のリズムに触れる 表現を工夫して詩を書く 中心になる場面を明確にして文章を書く			
本単元に係る児童の実態		●〔知識及び技能〕 初発の感想や振り返りの中で、自分の考えた事や登場人物の気持ちなど考えて書くことができるようになってきている。 ●〔思考力、判断力、表現力等〕 4月から週末に日記を書いているが、出来事など事実を書くことはできる一方で、自分の思いや考えを表現することが苦手な児童が多い。1学期に行った俳句作りは、季語を用いて積極的に作る事ができた。 ●〔学びに向かう力、人間性等〕 読書好きな児童が多く、休み時間や空いた時間には読書を楽しむ姿がよく見られる。自分の好きなジャンルに偏っている様子は見られる。			
過程	時間	ねらい	主な学習活動	主な支援・指導上の留意点	〔評価の観点〕 評価規準<評価方法> ◇指導に生かす評価 ◆評定に用いる評価
つかむ	1	○教科書の2つの詩を読んで、学習のめあてを捉え、見直しをもつ。	○だんごむし、おふろについて、チャート図を書いてイメージを膨らませる。 ○2つの詩を読んで、今までの経験で、自分の心が動いた瞬間について振り返る。	○身近な出来事や周りの人との関わりの中で、心が動いた瞬間について振り返ったり、見つめなおしたりして、気付いたことや想像したことなどを詩に書く学習であることをおさえる。 ○身近な出来事を題材にした他の詩を用意し、掲示するなどして、詩のイメージをもてるようにする。 ○チャート図には、擬音語や擬態語について確認し、詩に用いる表現が増やせるようにする。 ○色々な形態で音読をし、様子や気持ちが想像し、詩を楽しめるようにする。 ○書きためておいた「はっとしたことメモ」を参考に書いていくことを確認。	◇〔態〕身近なことや想像したことを詩にすることに興味をもって取り組もうとしている。(音読・チャート図・発言・振り返り)
追及する	2	○「ころころりん」を読んで、書き方の特長や表現の優れているところを見つけ、詩を書くうえで必要な事柄を集める。	○「ころころりん」の音読をし、工夫がない詩と比べ、どんな良さがあるか話し合う。 ○詩を書くときの工夫について気付いたことを話し合いまとめる。	○「題名のくふう」「たとえる」「音、声、様子」「くり返し」「リズム」「心の動き、気持ち」について、読み取れるようにする。 ○書き込めるワークシートを用意し、色えんぴつで色分けしながら、「詩の書き方のくふう」について確認する。 ○個人、クラス全体で話し合いまとめる。	◇〔知①〕詩を読んで、書き表し方の工夫や表現の優れているところを見つけ、詩を書くうえで必要な事柄を集めている。(ワークシート・ロイロノート・ノート・発言)
	3	○「なべでふうふう」を読んで、書き方の特長や表現の優れているところを見つけ、詩を書くうえで必要な事柄を集める。	○「なべでふうふう」の音読をし、工夫がない詩と比べ、どんな良さがあるか話し合う。 ○詩を書くときの工夫について気付いたことを話し合う。	○「題名のくふう」「たとえる」「音、声、様子」「くり返し」「リズム」「心の動き、気持ち」について、読み取れるようにする。 ○書き込めるワークシートを用意し、色えんぴつで色分けしながら、「詩の書き方のくふう」について確認する。 ○個人、グループで話し合い、クラス全体で確認する。	◇〔知①〕詩を読んで、書き表し方の工夫や表現の優れているところを見つけ、詩を書くうえで必要な事柄を集めている。(ワークシート・ロイロノート・ノート・発言)
	4 (本時)	○二編の詩の書き方の工夫や表現の優れているところを参考にし、詩の書き表し方について理解を深める。	○「詩の書き方のくふう」をもとにして、「ころころりん」「なべでふうふう」の穴埋めをして、自分や友達の表現を楽しむ。	○前時の「ころころりん」「なべでふうふう」の工夫を確認する。 ○「詩の書き方のくふう」を活かして、「ころころりん」「なべでふうふう」の穴埋めワークシートを通して、知識の確認や表現の楽しさがわかるようにする。 ○ワークシートを3種類用意し、それぞれが取り組みやすいものに挑戦する。 ○グループや学級全体で発表し、自分や友達の工夫した点について交流する。	◆〔知②〕「心の動き」「題名の工夫」「たとえ」「くり返し」「リズム」を活かして、様子や行動、気持ちなどを表す表現を使っている。(ワークシート・ロイロノート・話し合い・発言)
	5	○自分のまわりに目を向けて、はっとして何かを見つめなおしたことをもとに詩を書く。	○強く心にのこったことを明確に意識して、表現を工夫して詩を書く。	○前時までの詩の書き方の工夫を活かして、強く心の残ったことを明確にして、表現を工夫して書けるようにする。 ○「はっとしたことメモ」を参考に、表現を工夫して詩を書けるようにする。 ○ロイロノートで下書きし、何度でも書き直しがしやすいようにする。 ○書き進められない児童には机間指導し、助言する。	◆〔思〕「書くこと」において、感じたことや想像したことをもとに、表現を工夫しながら詩をつくっている。(ロイロノート・作品) ◆〔態〕身近なことや想像したことをもとに言葉を工夫して詩に書く楽しさやおもしろさを味わっている。
	まとめ	6	○身近なこと、想像したことなどをもとに書いた詩を読み合い、詩の良さについて話し合う。	○グループごとに作品を交換し合い、それぞれの詩の良さについての感想を書く。 ○振り返り	○グループや学級全体で発表し、自分や友達の工夫した点について交流する。 ○感想をロイロノートのテキストに書き、感想を送り合い、共有できるようにする。 ○清書は、紙の用紙に書き、上毛新聞ジュニア詩壇に送る。
単元の評価規準 【知識・技能】①言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。 ②様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増やし、話や文章の中で使うとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにすること。 【思考・判断・表現】○「書くこと」において、感じたことや想像したことをもとに、表現を工夫しながら詩をつくっている。 【主体的に学習に取り組む態度】①進んで書き表したいことを工夫し、学習の見直しをもって詩を作ろうとしている。 ②身近なことや想像したことをもとに言葉を工夫して詩に書く楽しさやおもしろさを味わっている。					